

#97 福音の本質 恵みによる救い

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏
 動画筆記 : Rumi

私には高校時代、大好きなミュージシャンがいました。ビリー・ジョエル。
 今でも彼の曲を聞くと、青春時代に一気に戻ってしまいます。
 このビリー・ジョエルのコンサートで、ある時から、最前列席のチケットが一切取れなくなってしまいました。

なぜかという、ビリー・ジョエル自身が売らなくなったのです。

最前列の席はプラチナ席といって、ものすごくいい。

相撲でも、土俵の最前席は砂かぶり席。

ここは、唾かぶり席ということですね。前の方がいいんですよ。衛生的にはどうか分かりませんが。

ビリー・ジョエルの最前列席、売れないのではなく、売らなくなったのです。

ある時から、どこで手に入れたのか、金に飽かせたのか、コネを使ったのか、非常に高額の席にズラッと座っている人たちが皆、ビリー・ジョエルを不愉快にさせる人たちになったから。

ドカッとふんぞり返って、両側にセクシーな女性を侍らして、「おい、聞いているから何か歌え！」みたいな。

彼としては、アーティストと聞いている人たちが共同作業で、一つのコンサートという作品を作り上げたいという理想があるそうです。

でも、「金払ってるんだから、何か歌ってみろ！」という感じで全然のらず、喜ばず、ファンでも何でもない。

「私には、この席を買えるだけのステータスがあるんだ。」みたいな人たちには、聞いて欲しくない。

だから「もう売らない。」

では、本当のファンはどこにいるのか、本当に支持してくれるファンはどこなのか。

それは、一番お金が入る最前列の席ではなく、後ろの方の席なんですね。

そこで、後列席の大ファンの人たちが入った後、マネージャーに言ってアトランダムに選び、プラチナチケットをサプライズプレゼントとしてその人たちに渡したのです。

みんな、「遠くの方からビリー・ジョエル様を見るだけでいい！」と思っているのに、ビリー・ジョエルの一存で「もっと前にどうぞ！」

これを『恵み』と言います。

金で買ったんじゃない。

ビリー・ジョエルの方から「是非、皆さんが私にもっと近寄って、もっと交流して欲しい。」

決して自分のお金では手に入れることができないプラチナチケットを、一方的に与えたわけですね。

恵みというのは、求めることができません。

恵みは、与える側の一存で決まるのです。

私たちが信じる聖書の神と、一般の宗教の神との決定的な違いは『恵み』！『恵み』！！

ビリー・ジョエルの場合は、ファンだけど遠く離れている、ファンで遠く離れている。

しかし神様は、「神なんか要らないよ。」「宗教なんか面倒くさいよ。」「神様なんか、必要じゃないよ。」と言って遠く離れているその人間に対して、一方的に憐れまずにおれない、近寄せたいと

願わずにはおれないのです。

皆さん、神様の本質は『愛』です。

あなたを心から愛して、大切に思っておられる方、その方の恵みを語っているメッセージが『福音』です。

『恵み』による神様のみわざ、『福音』を、今日一緒に考えたいと思います。

昨日の午前中に、この集会で新生児祝祷式がありました。

生後1か月の赤ちゃん。

クリスチャンは宮参りも七五三もしません。

その代わり、集会所で新生児祝祷式。

イスラエルのタリートでくるんで。意味は何もないですよ、これ。

なんかちょっと、厳かな感じがするという演出もあって、困いながらお祈りして祝福するんです。

祝祷式の最初に、全員で讃美歌を歌うのですが、歌い終わってちょっと静まった時に、その生後1か月の赤ちゃんが「アーメン」って。

天才か!? トンビが鷹かと。

暫くしたら、そのお姉ちゃんがまた、合いの手入れるように「アーメン！」

ちょっと、入れて欲しくない時に入ったんですけど、まあ、良かった。

その赤ちゃんの名前が「信じる」+「音」で「しの」ちゃん。

これは、「福音を信じる」と書いて「しの」ちゃん。

イエス・キリストの福音を信じる子供になって欲しい。

医者になって欲しい、弁護士に、パイロットになって欲しい、そんなことより、もっと大事なことがある。

神が、キリストに於いて成し遂げて下さった、素晴らしい知らせを信じる子供になって欲しいという、クリスチャンの親ならではのブレない軸。

非常に大事な点であると思います。

名前にも付けたくなるような重要な音。

この音はサウンドではなく、「音信」「訪れ」のこと。

つまり「お知らせ」のことです。

聖書は、私たちが神様の領域に達して天国に行くために、あんな修業をしなさい、こんな善行を行いなさい、という掟について書いている本ではありません！

「どんな罪人（つみびと）でも、そのまま全ての罪を赦して頂くために、神があなたに代わってして下さったのはこんなことです。」というお知らせ。

これが『福音』なのです。

この福音をエッセンスのように語っている箇所を一緒に考えたいと思います。

ローマ人への手紙 3章 23節-25節。

23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、

24 ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。

25 神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。

ここから3つのポイントを紹介したいと思います。

先程、福音というのは喜びの知らせ、グッドニュースだと言いましたが、今読んだところは、よく

よく調べると、バッドニュースとグッドニュースの合体です。
ここの前半部分は、悪い知らせ。
聞いた人ががっかりさせるような宣告のメッセージ。
しかし、その生々しい現実の後で、そのひどい現実から救済される方法について後半語っている。
これが福音なのです。
前半部分が分からないと、後半部分の必要性は分かりません。
僕は初めてハワイに行った時に、今でも覚えているのですが、怪我しました。
今もですが、ポケットの中にペンを入れる癖があって、その時、シャープペンシルの芯を出したまま、芯を上に向けてポケットに入れていたんです。
観光案内されている時に携帯電話が鳴って、私のその時の携帯は海外では使えないものなので、自分ではないということが理屈では分かっているのですが、呼び出し音が同じだった。
それで、「あ、携帯鳴ってる。」と、ピュッとポケットに手を入れた時に、右手の薬指の爪の中に、シャープペンの芯が突き刺さったんです。
そーっと出したら、ペンがそのままぶら下がって来る。
言っときますけど手品じゃない。えええっ!! と。
僕は痛いのは苦手なのに、時々そういう事が起こる。
翌日手術して頂いたのですが、その方がクリスチャンの医師で、今でもその時の会話はよく覚えています。
薬指の両端に神経が走っていて、彼がそこに麻酔を打ってくれた時、ポコッて、スズメバチのお尻のように指の付け根がパンパン。
全く痛さを感じなくなり、爪を剥がす手術が始まりました。
で、「これは…、見なあかん…！」
なぜか。私、ラジオで言うネタが、もうないんですよ。
「何か言うことないか、目新しいことはないか。」と常に探していますから、「この経験をリスナーの皆さんと分かち合うことができる！」
もう、見たくないけど、「ううう、うあっ！ うあーっ!!」
そしたら、執刀していたドクターが、「あの一、そのリアクション、邪魔です。」
そして、「先ず、どこが痛むか、指して下さい。」
「ここです。(薬指の先端)」
「そうですか。もう見ない方がいいと思います。良かったら、あれをご覧になったらどうですか？」
クリスチャンのクリニックなので、治療室の中に聖画というか、イエス・キリストを描いている絵が掛かっているんです。
その一つに、イエス様に向かってワーンと来ている幼子たちをキリストが抱き上げて、「あ～、よく来たね～！」ってハグしている絵があって、「あれを見ていて下さい。」
この、えげつないのじゃなくて。

後になって気がついたのですが、「先ず、自分の問題点を見なさい、その次には、解決者キリストを見なさい。」これは、すごく聖書的なアプローチじゃないかと思えます。
先ず、自分の中に傷があること、問題があること、罪があることを見る。
それで、「ああ、自分では解決できない。だからこそ、私にはキリストが必要なんだ。」という次のステップに入ることができる。
どうして福音は、前半部分がバッドニュースなのか。
私たちは全員、例外なしにキリストを必要としているのだ、ということを知ってもらいための

です。

すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず（ローマ 3:23）

全ての人ですから、ユダヤ人もギリシャ人も日本人も、男性も女性も、老いも若きも、全ての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができません。

どんな罪か。

第1義的には、神に対する反逆。創造主に対する反逆。

この、神に対する反逆を考えた時に、2つの代表的な極論があります。

1つの極論は、真の神が何であろうが、何でも神として拝む偶像礼拝。

「私、信心深いんです。キリストも信じます。キリストも。

お釈迦さんもヒンズーの神様も、色んな神様を信じているんです。みんな、仲良く。」みたいな。何でも神にする。

もう1つは「神なんかいないよ。」という無神論、唯物論の立場。

両方とも間違いです。

先ず、偶像礼拝。

2011年3月11日に東日本大震災がありましたね。

その月に、この集会のメンバーと一緒にボランティアに行ったのですが、大阪で特別集会があったので、私だけ1日早く仙台から大阪まで、夜行の高速バスで戻らなければなりませんでした。

バスが来るのを待っていたら、余震で震度5！

皆さん、震度5って、立ってられません。グラグラグラ！

その瞬間、町の全ての電気が消えた。街灯もネオンも何もない。真っ暗。

ものすごく揺れた瞬間ですよ。

ビルの下で待っていた人たちは皆一斉に、片道3車線の、だから6車線の真ん中に向かって走り出しました。

私はどうしていいかわからないから、人に合わせるということで、みんな走っているから私も走る。道路の真ん中に行ったら、上からガラスの破片を被らずにすむんです。

建物のすぐ下にいたら、窓ガラスが破れて、ガラスの破片をバーっと浴びてしまう。

だから、道路の真ん中へ。

ところが、真っ暗な中で、カバン持ってくるのを忘れてしまった。

真っ暗だと自分の足元も見えないんですよ。

だから、カバンがどこに置いてあるのかもわからない。

「困ったー！カバン、どこに置いたかー！」と、つい、口に出てしまうこのワタシ。

そしたら、みんなボランティア関係の人たちで、協力的なんですね。

「これ、お使い下さい。」と言って、懐中電灯を貸して下さった。重宝しますよ。

「ここにありました。ありがとうございました。」

無事にカバンを見つけることができ、懐中電灯のおかげで、ずいぶん助かりました。

しかし、だからと言って、懐中電灯に向かって「懐中電灯さん、ありがとうございます。拝みます。

これからは、盆と正月は賽銭します。」とか、そんな人はいません。

懐中電灯は役に立ちましたが、その持ち主に礼を言うべきです。

そのオーナーに「貸して下さい、ありがとうございました。」と言うべきですよ。

自然界の中には、自然界を支えている多くのものがあります。
私たちの命を支えるのになくってはならない、たくさんものがある。
太陽も空気も水も山も川も。
自然界、それは素晴らしくて、生きていくためにはなくてはならないものですが、それを拝んでも意味がないのです。
それを拝むのではなく、それをお造りになったオーナーを礼拝すべきです。
ところが、日本の文化に於いては、何か特別の形あるものを、犬でも狐でも蛇でも熊でも拝む。
皆さん、形があったとしても、それは何の意味もない。何の意味もありません！
今日、ラジオでも少し放送したのですが、ずいぶん昔、金閣寺が火事で燃え尽きました。
あれは、放火です。
仏教の大学である大谷大学の学生で、金閣寺でアルバイトをしていたお坊さんの見習いがいたのですが、あまりにも美しく、ウツリして火を点けるんですよ。
なぜ、美しかったら火を点けるのか、私には分かりませんが。
それを小説にしたのが三島由紀夫。小説“金閣寺”
なんだか、彼だったら分かりそうですね。
その時、金閣寺の本堂だけではなく、弥勒菩薩像が焼けたんです。阿弥陀如来像も。
国宝級の仏典が焼けてしまった。
ある新聞社のインタビュアーが、金閣寺の山田無文（やまだ むもん 1900-1988）という管長に質問しました。
「山田さん、えらいことになりましたね。国宝の阿弥陀如来像も弥勒菩薩像も焼けてしまって残念でした。」
そしたら無文さん、「いや、国宝と言うけど、所詮、物質だから。」
これ、私が言ったら反感買いますけど、金閣寺の住職のトップが「所詮、物に過ぎない。」と言ったんですよ。
この人、本当の仏教者です。
仏教の教えは“諸行無常”（しょぎょうむじょう）“生者必滅”（しょうじゃひつめつ）
形あるものは崩れる。生きるものは必ず滅する。
それを拝んでも何の意味もない。
そこには何にもないのです。
ところが長—い間、先祖から伝わって来た「それを処分すると…、それを拝まないと恐い…、たたりが…」
ありません！ 私、今までどれだけ処分してきたか。
神がお造りになったものを拝むのではなく、造って下さった創造主を崇める、ということが一番大事なのです。

もう一つの極論は、「神なんか、ないよ！」という唯物論。

「人間に主なる神がいる？ いらん！」「人間が主人だ！」「神なんか関係ない！」という考え方。
こちらの方が、若い人を中心に圧倒的多数なのかも知りません。
私は今のマンションに住んで 20 年以上になるんですが、入居する時にいくつかルールがあって、その中に「ペットは飼えない」
今、各階で飼っている。どうしてかという、そのマンションのオーナーが飼い出したからです。
ルールを作った人がルール違反したもんだから、「じゃあ、ウチもいいわ。」とみんな犬を飼うようになりました。

犬は忠誠、いくら遅く帰っても必ず起きてくれるでしょ。

「もう、眠い」とか言いません。「お帰り！ はっはっはっ（犬の息）」でしょ。

でも、ペットを飼う家がとても多いけど、同時にペットを躰けることができない家庭が増えていると言います。犬は主人に忠誠を誓うと思っていたら、必ずしもそうではないらしい。

ペットを躰けられない家庭のテレビ番組で、障子は破れっ放し、ソファはスプリングが出てる、もう散らかってぐちゃぐちゃ。

そこに、こんな大型犬、よく家の中で飼うな、というような犬がいる。

それで、プロの調教師が入って、1分くらいずっと様子を見て「分かりました。」パーンと見抜くんですね。

実は、犬という動物は集団行動、群れを作って行動する生き物で、ペットの犬はバラバラになっていますが、野良犬は群れで行動する。

群れで行動する動物は、序列がはっきりしているそうです。

つまり、ボスには絶対服従。

ナンバー2はナンバー1に従い、ナンバー3はナンバー2に必ず従う。

自分よりも序列の低いものに対しては、どんなことがあっても言うことを聞かせる、というのが犬の本能の中に書き込まれているそうです。

それで、「失礼ですが、こちらの家では飼い主が飼い犬に飼われています。」

「ええ！ そうなんですか!？」

「そうだと思いますよ。ご主人、今あなたはソファに座っていますが、犬が唸っているでしょ。

どうしてか分かりますか？ “そこ、俺の場所や！ のけっ！” と言っているんですよ。」

「つまり、この犬は飼われていると思っていません。“俺の家に人間を住まわせてやっている”という世界観で生きています。」世界観と言うか、何と言うか。

「だから、“ボスはおまえじゃない”ということを示さない限り、直りません。」

序列を正すのに1分でした。このプロの調教師。

友達にならない。ペットは友達ではない。

「私がボス。おまえはしもべ。」

そうしたら、言うことを聞くんです。

なぜ、家の中が破れ、めちゃくちゃ、無秩序、混乱なのか。

それは、飼い犬にもかかわらず、飼い主を無視して、飼い犬が飼い主になっているから。

だから、「俺の好きなようにやらしてもらおう。」

どうしてこんな話をするかと言えば、人間そっくりだからです。

この世界をお造りになった創造主こそは、本当の宇宙の中心、私たちが従うべきお方です。

ところが、「神なんか、関係ない！ 俺が神だ！ 俺が主人だ！ 俺が主で、オーナーで、社長で、ボスなんだ！」

なぜ、この世にドメスティック・バイオレンスや虐待やレイプや戦争、誘拐、拉致があるのか。

みんな、自分の意を通すことが、一番の正義だと思っているからです。

一人ひとりが皆、まるで神のように振る舞っているからではないでしょうか。

「畏れるべき方を見失ったということが、人間が無軌道になってしまっている根本原因ではありませんか？」と聖書は語るのです。

真の創造主から離れて、神様を無視して反逆すること、これが罪の本質です。

その結果、**すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず（ローマ 3:23）** 言い換えたなら、「全ての人は、もし罪を犯したのではないならば、神からの栄誉を受けるために造られていたのだ。」

人間が罪を犯したので、神は、ご自分が準備しておられた栄誉を与えることができないのです。

そもそも、神が人間をお造りになったのは、神の栄光を現わすためでした。

しかし、神と人間との間に罪の亀裂が入り、或いは、罪の遮蔽物ができてしまったために、人は神様の栄光を現わすことができなくなってしまいました。

神様から離れて死ぬならば、神様がどこにもいない世界に堕ちていきます。

神様の栄光がどこにもない世界、それを地獄と言います。

もし罪を持ったまま死ねば、全ての人は地獄に行きます。

なので、このメッセージはバッドニュースです。

しかし、続きがありますね。

ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、（ローマ 3:24）

『罪』とは何か。

創造主から離れること。神との関係を断絶すること。神とのパイプを切ること。

そうしたら、神から流れて来る祝福が自分の元に来ません。

この、神との断絶を罪と言います。

しかし、神は恵みによって、私たちを近づけたい、遠くに離れている私たちを一番前の席にまで持って来たいがために、キリスト・イエスによる贖いを与えて下さいました。

『贖い』という言葉は、ヘブル語ではコーフェル。

『覆う』という意味もあります。

覆われるって、本当にありがたいと思いますね。

以前もお話したかもしれませんが、ノーベル賞作家のヘミングウェイ。

殆どの方がお読みになってないんですね。名前は知っているけど、読んでない。

でも、彼の作品はすごく読み易いですよ。多分、ハードボイルド小説の元祖じゃないですか？

何がいいかというと、“老人と海”以外は短編ですよ。短い。ありがたいというかね。

さて、ノーベル賞を取ったので色んな所からインタビューを受けるのですが、その時に必ず持ち出すお気に入りの話がありました。

スペインの田舎、一人の少年が反抗期で、父親と大喧嘩して「オヤジなんかもういい！」

そして家出して、バルセロナという大きな町に行ってしまう。

2日経っても3日経っても息子が帰って来ない。

お父さんは心配して、バルセロナまで捜しに行くのですが、余りにも大きな町で、どうしたらいいか分からない。そこで、ある人に聞いて、バルセロナで一番よく読まれている新聞に3行広告を出して、息子に呼びかけることにしました。

息子の名前はパコ。パコはスペインでは非常にありふれた名前です。

3行広告で、「パコ、全部赦している。火曜日、ホテル・モンタナの前で、午後1時に待っているから帰って来て欲しい。父より。」

そして火曜日。ホテル・モンタナの前に800人のパコがいたというのです。

ヘミングウェイは、「世間には、父と和解したがっている息子が何と多いことだろう。」

「この世の中には、お父さんから『全て赦した！』という言葉を書きたがっている子供たちが、何

とたくさんいることだろう。」

「この世界には、『帰っておいでよ!』と迎える親に、またその暖かい歓迎の言葉を聞くことに渴いている子供たちが、どんなにたくさんいることだろう。」と、この話を必ず持ち出しました。

それは、彼と両親との関係が最悪だったから。

ヘミングウェイのお父さんは医者で、お母さんは声楽家。

お父さんはアウトドアタイプで、彼にボクシングとかヨットとか色んなスポーツを教えました。

幼い時には「お父さん、お父さん」で良かったのですが、だんだん反抗期になっていきます。

ヘミングウェイは6人兄弟の長男ですが、とにかく、エネルギーがあり余っている人。

枯れてない。だから戦場に行く。

乗っていた飛行機が2回も墜落。そんな人いないでしょ? 普通は死にます。

とにかく、ヤンチャというか、飲む、打つ、買うというか。

しばしば、公衆の面前で、両親の顔に泥を塗るようなことをしました。わざと。

そうして、それを苦にしたお父さんがピストル自殺。

ヘミングウェイは、非常に後悔します。

だけど、お母さんは赦しませんでした。

「あんたの親不孝がたたって、お父さんをここまで追い詰めた!」

母と息子の間に、修復し難いこじれができてしまいました。

ある時、ヘミングウェイの誕生日に、お母さんがプレゼントを贈りました。

中身はケーキと、お父さんが自殺した時に使ったピストル。

つまり、「来年まで生きていないでね。」

それをした後で、また後悔する。

仲良くなろうとするのですが、“ヤマアラシとヤマアラシが仲良くなろうとして接近したら、お互いチクチクして刺さる”みたいに、和解しようとして接近していくと、今までの生々しい傷とか、ひどいことされたとか、忌まわしい記憶がブワッと出て来て、「やっぱり無理!」

和解することができません。

だからヘミングウェイは、『『全て赦した!』と言ってもらうのを望んでいる子供が、どんなにたくさんいることか。』と言ったのです。

最終的に、ヘミングウェイ自身も自殺しました。

私たちをお造りになった神様は、私たちを愛して下さっていますが、同時に、聖い神、罪を憎む神、神聖なる神。その神様と罪人である私。

神と私の間に罪という遮蔽物があって、これがある限り、心の底から和解し合うことはできません。

神と人との間に横たわっている罪を完全に覆い、取り除き、永遠の向こうにまで持って行くために、イエス・キリストがこの世界に来て下さった、と聖書は語ります。

キリストは私の罪を背負って、今から2000年前、十字架にかかって死んで下さいました。

金曜日に、あるホテルで講演会をしていたのですが、そこに、ラジオの番組を通してイエス・キリストを信じたという人がいました。僕の友人。

「14年前にラジオの番組で信じました。」

彼と一緒に食事をしている時に、「高原さん、先月5月3日、僕の5歳になる一人息子がプールで溺死しました。」「えっ!?!」

「奈良のプールで4月30日。すぐに引き上げられて、ドクターヘリで医大病院まで運ばれました。」

その時、息も絶え絶えの子供をドクターヘリで運ぶ時、周りの人たちがどうしたかという、スマホで動画を撮っているんです。

なんで、あんな、ひどいことをするんでしょう。

この世界って、なんて、ひどいんでしょう。

僕、思うんです。こんなひどい世界に、愛する息子がずっと成長していったら、将来ものすごく大変なことになっていたかもしれない。」

「でも、まだ納得できない。僕には分からないんです。なぜ、息子は死んでしまったんでしょう!？」

私は、かける言葉がありませんでした。

この世界で起こることを、神でもない人間が、「これは、こういう理由でこうなりました。ああいう理由であなりました。」って、簡単に言えるものじゃないと思います。

人間は、神がお許しになることを、完全に理解することはできません。

だけど、「神は最悪のことも、必ず最前に変えて下さる。」ということ、信じることはできるので

す。彼は、集中治療室で、息子さんの手を取りながら会話した時のことを話してくれました。

泣きながら。ぽろぽろ泣いて。

「イエスさまが一緒に行こうって言うてるから、ボク、イエスさまについて行っていい？」

「おまえが行ったら寂しいやないか。行かんといてくれ。」

「でも、イエスさまが行こうって、手を引っ張ってくれてるねん。」

「分かった・・・」

それで、召されて行った、という話をしながら、もう、言葉にならない。

ずっと泣いておられた。

私はその姿を見て、その日一日、そのことばかり考えていました。

一人息子を失くす父親の気持ち。

どんなに辛かっただろう・・・

神のひとり子イエス・キリストが、私の罪を背負って十字架にかかり苦しんでいる姿を、父である神がご覧になった時に、どんなに辛かっただろう。どんなに痛かっただろう。

この働きを中断したいと思われたかもしれない。

しかし、キリストは、このわざを成し遂げて下さいました。

私のために全ての罪を背負って、完全に裁かれ切って下さった方、墓に葬られた方、そして3日目に復活することで、キリストによる救いが完成したものである、ということを表明して下さいました。それが、イエス・キリストです。

この救いをどうやって受け取ったらいいでしょうか。

神は、キリスト・イエスを、その血による、また信仰による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。 (ローマ 3:25)

“信仰による、なだめの供え物”とは、信仰によって受け取るべきなだめの供え物、ささげ物、『救い』という意味です。

つまり、2000年前に神が行い、完成したこの救いを、自分のものとするために必要なことは信仰だけ。

「神は、私のためにここまでして下さいました。神様、どうもありがとうございます!」と、感謝して受け取るということが求められているのです。

先日、派遣会社のコーディネーターをしているシバヤマ ユミさんという一般の方が、あるエッセイコンテストに応募して入賞したのですが、その文章がとても良かった。

この方は、求人広告を見て応募してきた人に面接をして、派遣社員として色んな会社に紹介するというお仕事をしています。

ある時、「おねがいしまーす。」と言って入って来た人が、黒スーツ、パンチパーマ、剃り込み、金ネックレス、大柄、表情読めず、ガニ股。ヤクザ映画から出て来たみたいな方。

「まず、履歴書を見せて下さいますか？」

37歳。高校中退。その後、水商売を転々として、働いていない空白期間がめちゃくちゃ長い。

直近の仕事はデリヘルドライバー。デリバリーヘルス、売春婦を運ぶドライバー。

「これはあかん。」と思ったけど、「あかん」とは言えないから、「あかんのやな」と思ってもらうために、「この仕事、きついですよお。夏でもクーラー、殆ど効きませんし、それに、どんなに辛くなっても、急に辞めるのは一番困ることですからね！」

「それだったら無理です。」と言わせようとするオーラを、「無理よ！」というのを出す。

なのに、「はい。」「はい。」と言って動じない。

それで、もう少し突っ込んで聞こうと「空白期間、長いですね。お家賃、どうなさっているんですか？」

そしたら彼が、「ヒモです。」「ヒモですか!?!」「ヒモです。」

「なぜ働くんですか？」

「もう、ヒモの生活はイヤになりました。ヒモをきっぱり止めたいんです。」

「きっぱり止めたい」と言った時の口調がキツパリしていたんですって。

で、何か、この人、本気だなと。

ちょっと向き合ってみてもいいかなと思った。

「では、ちょっと言わせてもらいますけど、あなた、今日、正装したつもりでここにいらっしゃったかもしれませんが、そのお姿で会社に行ったら、絶対NGです！」

「パンチパーマ、止めて下さい。黒シャツ、黒スーツ、止めて下さい。金ネックレスも止めて下さい。」

先の尖った白いエナメル靴も止めて下さい。」

怒るかなーと思って見たら、背筋をピンと伸ばして「はいっ!」「はいっ!」

「そんなことを言って下さるのは、初めてです。はいっ!」やる気満々。

それで、この人にかけてみようと思った。

彼女は、その仕事をしてきた中で、今まで誰にも言ったことがない言葉を口にしたのです。

「私、あなたを信じていいですか？」

すると彼が、「はい。お顔に泥を塗るようなことはしません。ありがとうございました！」

「いや、紹介できる会社ができたら、紹介させていただきますから。」

「それでも、ありがとうございました！」

彼が出て行った後、聞き耳を立てていた同僚たちがバーっと集まって来た。

「ほんまにええの!?!?!」「めちゃくちゃ勇氣ある！」

だけど、何か本気じゃないかなと思って、ある新聞折り込みの印刷工場に斡旋したそうです。

それから半年ほど経って、フラッとその人物が現れました。

同一人物とは分からなかった。

まず、顎のラインがシャープになっている。ヒモの生活じゃないからすっきりしている。

そして、髪の毛は刈上げ。パンチパーマじゃない。

白い Polo シャツを着て、ちょっとイカしたプロゴルファーみたいな感じ。

サッと来て、「その節はお世話になりました。」

「今も続いているんですか？」

「働かせて頂いてます。それで、その件について、ご報告したいことがあります。

実は、先日、工場長から呼ばれて、正社員としてやってみないか、と言われました。嬉しいです。だから先ず、あなたにご報告したいと思って来ました。」

「頑張ったんですねえ！」

「お顔に泥を塗るワケにはいきませんから。」昔のしっぽがチラッと見える。

でも、彼は「信じてもらった」ということが、ものすごく嬉しかったんですね。

人格ある者に対して、最も敬意ある、リスペクトする態度は「その人格を信じる」ということです。

そして、人格ある者に対する一番無礼な行為は「疑うこと」

神様は人格をお持ちの方です。

この方は全知全能ですから、人間が持っているものなど、全部、無からお造りになることができます。

この方が人に求めているのは、ひとつだけ。

『神を信頼する態度』

「私は無力で何もない。この私に代わって、あなたが全てのことをして下さった、ということをお前は信じます。」という信仰告白を、神は、この上もなく喜んで下さるのです。

この間、中国共産党の女性党員が、浙江省（せっこうしょう）という所に視察に行ったそうです。教育関係の仕事をしている彼女は、ある幼稚園で視察していました。

お昼ご飯になって、みんなで食べるのですが、一人、クリスチャンホームの子がいた。

周りの子は「いただきます」って食べているのに、その子はお祈りしている。食前の祈り。

皆さんはご飯の時、祈ってから食べることはないでしょ？

もしそんな人がいたら、クリスチャンですから、そっとしてやって下さい。

私の長男は幼稚園の時、それが悩みだったんですよ。

食前に頭を垂れて、目を閉じて、手を組んで祈るんですが、先生が「おなか、痛いん？」

「祈ってる」って言えない。

それで、箸箱をわざと落とすんですって。

それを拾っているフリして、机の下で祈ってから食べる。エライ苦労して。

日常生活に祈りというのがないから、目をつぶって、手を組んで、祈りの姿勢をしていたら、お腹が痛いのかと思われる。

大人でもそうですよ。食事に行ったら、料理が来る前に先に祈ろうと。

祈っている最中に次のが出て来て、色々言われたら嫌だから。

さて、中国は共産主義の国ですから無神論。

みんなは食べているけど、一人だけお祈りしている。

祈り終わるのを待って、彼女は聞いたそうです。

「目に見えない神様にお祈りするってナンセンス。意味ないんじゃない？ そんな事をしても仕方ないでしょ？」

そうしたらその子が、「ぼくには見えなくても、神には、ぼくが見えるんです。

ぼくに見えないという事が、神にも見えないという事ではないと思います。

それにぼくは、親切に下さった人には、ありがとうということにしているんです。
だから、感謝してから頂きます。」
その言葉が、妙に深く、彼女の中に突き刺さった。
そして今、ある家の教会に行かれてクリスチャンです。
そのレポートが送られてきました。何が用いられるか分かりませんね。

神様は、感謝されて当然のことをたくさんして下さいましたよね。
私たちを生かして下さい。食物を与えて下さっている。今日も一日、人生を支えて下さった。
しかし何よりも、イエス・キリストを与えて、私に永遠のいのちを得させて下さる方なのです。
いかかでしょうか。
信仰によって、信仰による、なだめの供え物、信仰により、この方を受け取ることによって、私たちは神の子となります。
是非、このイエス・キリストを信じて下さい。
心からお勧めしたいと思います。

~~~~~

- \* 動画は YouTube で検索 「HCA 東住吉キリスト集会」 ぜひ観て下さい。
- \* ラジオ番組「聖書と福音」(15分)も是非どうぞ。スマホでいつでも聞けます。